

「人と人は違う」という前提でコミュニケーションを考える

校長 高橋 秀吉

現代は情報があふれ、私たちは日々さまざまな情報に触れています。かつては世代等に関係なく誰でも知っている流行歌（古い言い方ですが）があったり、みんなが知っているヒット商品があったりしました。

情報過多になり、趣味や嗜好も多種多様になるなかで、個々人が自分の興味関心を広げたり、深めたりすることが比較的容易にできるようになってきた良さはあると思います。

一方で、共通認識や共通の話題等で安心感が得られたり、一体感が味わえたりすることは難しくなっているのかもしれません。

言い換えれば、「みんな同じ」であることを好む方向性はあるながら、実際はそれぞれの「違い」が顕在化してきているのが現代かもしれません。

学校という場では、ほぼ同じ年齢の集団が同じカリキュラムで学んでいます。社会に出ると、同じ年齢の集団で行動することは希かもしれませんし、同じことを全員で行うことも日常的ではないと思います。

いずれ生徒のみなさんは大人になり、社会に出ていきます。「みんな同じ」という方向性だけでは変化していく現代社会に適應することは難しいと思います。

そこで、「人と人は違う」という前提でコミュニケーションしていくことは現代社会の中で有効であると考えます。「みんな同じ」という前提でのコミュニケーションですと、「違い」に対して違和感があり、ともすると排他的や攻撃的になる場合があるかもしれません。「人と人は違う」という前提で、自分自身やコミュニケーションする相手、家族、友人等を捉え直してみるのも、よりよいコミュニケーションのヒントになると考えます。

★【より良いコミュニケーションのヒント】★

- まずは、相手の言うことに耳を傾ける。
- 自分の考えを押しつけない。
- 言葉でできるだけ具体的にわかりやすく説明する。
- 相手の考えや気持ちを言葉にしてくり返し、相手にこちらの解釈が合っているか確認する。
- 自分の主張は相手に受け取ってもらえるような表現にしてはっきりと伝える。

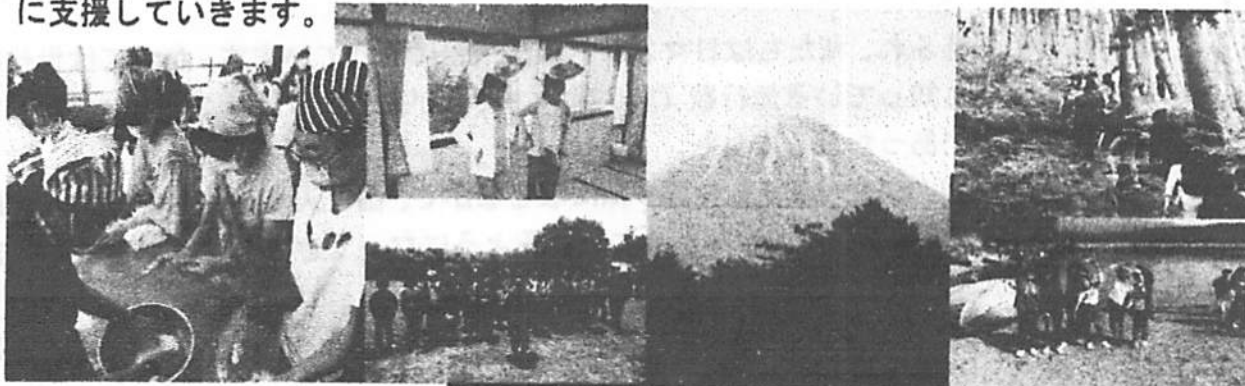


◆1年生、自然教室で豊かな体験◆

5月16日(水)～18日(金)の二泊三日で1年生の自然教室が実施されました。場所はこれまでと同様に山梨県の根場村でした。

学級ごとの分宿で、それぞれの学級で「ほうとう作り」「カレー作り」を行ったり、長縄の練習を行ったり、エコツアーに出かけたりと多様な体験ができました。

天候にも恵まれ、充実した体験を通して学級がまとまり、生徒同士の相互理解が深まったと思います。この自然教室での体験をこれからの学校生活で更に深めていければと思います。また、生徒たちが「自分たちで問題解決する力」を更に伸ばしていけるように支援していきます。



それぞれの特色が生かされた小学校の運動会！

5月26日(土)に日吉台中ブロックの4小学校(日吉台小・矢上小・日吉南小・北綱島小)の運動会を拝見させていただきました。午後から地域の会合に出席する関係でそれぞれの小学校における滞在時間は短かったのですが、どの小学校も特色を生かし、工夫が凝らされた運動会でした。

・北綱島小学校は北綱島特別支援学校と合同で行っており、子どもたちが一緒になって取り組んでいる姿が素晴らしかったです。

・日吉南小学校の5年生による組体操はレベルが高く、中学生でも難しいのではと思わせる内容でした。

・矢上小学校は、迫力ある50m走を見ることができました。難しいコーナリングをテクニックでカバーしていました。

・日吉台小学校でのマスゲームは児童の表現力が素晴らしく、集中力も高く見栄える内容でした。

PTAや教職員のみなさん、お疲れさまです！

★募金活動へのご協力、ありがとうございます★

福祉委員会では、今年も熊本地震災害義援金のための募金活動を日吉本町駅前や学校にて行いました。地域、保護者、卒業生の皆さまにご協力をいただきました。義援金は日本赤十字を通して被災地にお届けいたします。ありがとうございます。 合計金額：54,934円